

戦士ダビデ



シリーズ～詩編～

2015/6/7

ペリシテとの戦い<サムエル記上17章>

- イスラエルの宿敵,ペリシテ
 - もともとは地中海沿岸にいた「海洋民族」
 - 高い文化を持っていた
- エラの谷をはさんでペリシテとイスラエルは陣をしいた
- ゴリアトという巨大な戦士
 - 全身を青銅の鎧(よろい)で包み,「盾持ち」を従えていた
 - 背丈は6アンマ半(約3m),5千シェケルの鎧(約60kg),「機織りの巻き棒のような」槍



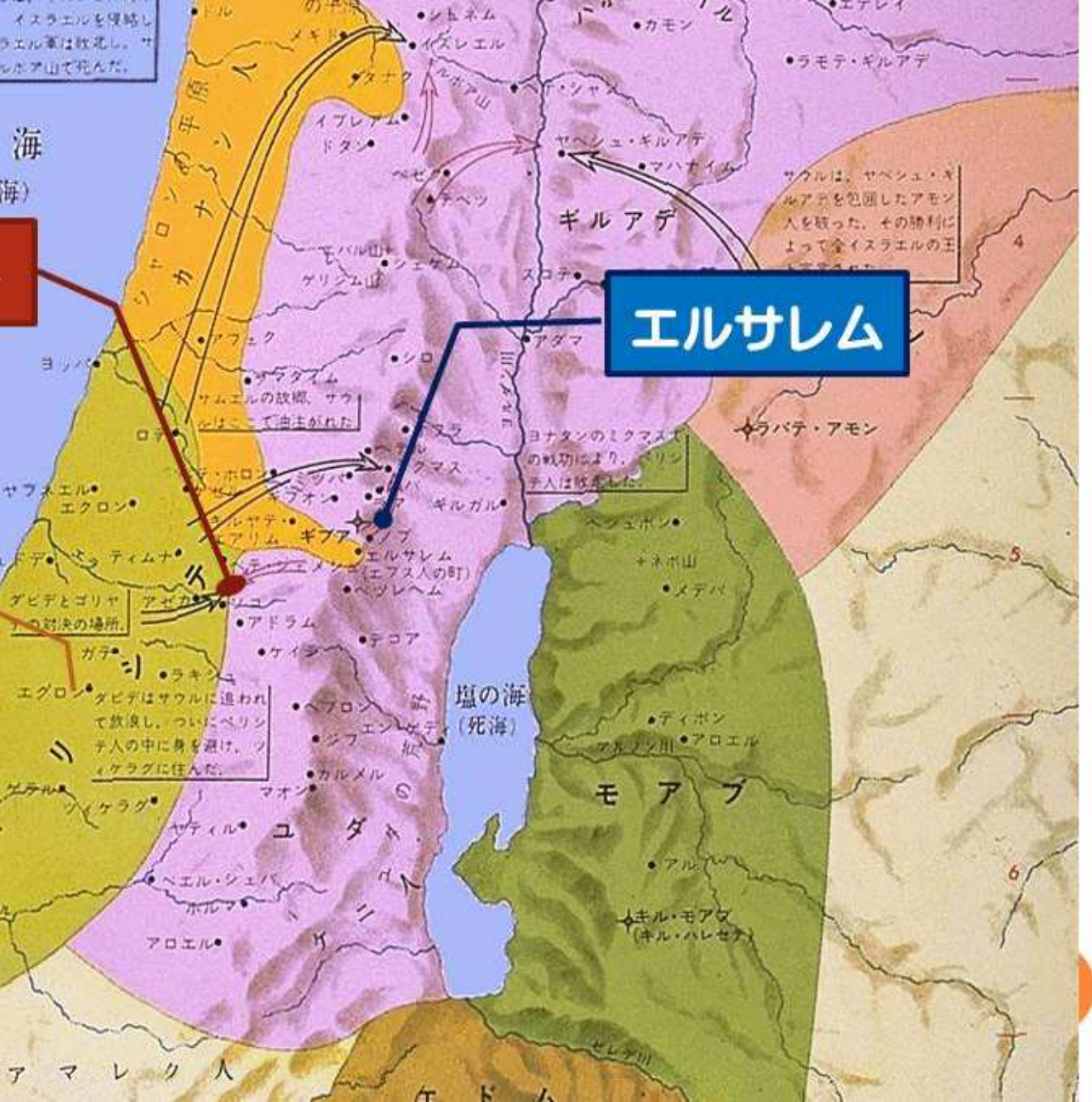
原を通り、イスラエルを侵略した。イスラエル軍は敗北し、サウルはホルホア山で死んだ。

大海
(地中海)

エラの谷

エルサレム

ペリシテ



アマレク人

サウルはアマレク人を破り、ユダの南境界線を守った。

サウルは、ヤベシュ・ギルアデを包囲したアモン人を破った。その勝利によって全イスラエルの王となされた。

ヨナタンのミクマスでの戦功により、ペリシテ人は破られた。

グビデとゴリヤの対決の場所。
グビデはサウルに追われて放逐し、ついにペリシテ人の中に身を避け、ツィケラグに住んだ。

サムエルの故郷、サウルはここで由まがれた。

4

4

6

5

6

6

戦場にやってきたダビデ

- ゴリアトは一騎打ち(代表戦)を望んだ
 - 負けた方が勝った方の奴隷になる
- イスラエル側からは誰も出なかった
 - 「イスラエルの兵は皆、この男を見て後退し、甚だしく恐れた」24
- ゴリアトを倒した物へのほうび
 - 大金と王の娘との結婚!
- ダビデは兄たちの安否を確認するために父から遣わされた
 - ダビデは戦いに出ていなかった



サウル王を説得したダビデ

○自分が戦いに行く,王に言った


- 「僕が行って、あのペリシテ人と戦いましょう。」32

○自分の経験と信仰で説得した

- 「僕は、父の羊を飼う者です。獅子や熊が出て来て群れの中から羊を奪い取ることがあります。」34

- 「獅子の手、熊の手からわたしを守ってくださった主は、あのペリシテ人の手からも、わたしを守ってくださるにちがいありません。」37

○サウル王の武具を拒んだ


- 「こんなものを着たのでは、歩くこともできません。慣れていませんから。」39
- 

ゴリアトを倒したダビデ


- 杖と「石投げ紐(ひも)」を手にゴリアトに向かった
 - 「自分の杖を手に取ると、川岸から滑らかな石を五つ選び、身に着けていた羊飼いの投石袋に入れ、石投げ紐を手にして、あのペリシテ人に向かって行った」40
- 主のために戦う、と宣言した
 - 「主は救いを賜るのに剣や槍を必要とはされないことを、ここに集まったすべての者は知るだろう。この戦いは主のものだ。」47
- 石投げ紐でゴリアトの額を撃ち、倒した




ダビデを勝利に導いたもの【信仰】

- 神様のために怒った（義憤）
 - 「生ける神の戦列に挑戦するとは、あの無割礼のペリシテ人は、一体何者ですか。」26
 - 主の助けを確信していた
 - 「獅子の手、熊の手からわたしを守ってくださった主は、あのペリシテ人の手からも、わたしを守ってくださるにちがいません。」37
 - 主のために戦った
 - 「主は救いを賜るのに剣や槍を必要とはされないことを、ここに集まったすべての者は知るだろう。」47
- 

ダビデを勝利に導いたもの【経験】

- 獣と戦った経験が恐れを除き冷静さを与えた
 - 「わたしは獅子も熊も倒してきたのですから、あの無割礼のペリシテ人もそれらの獣の一匹のようにしてみせましょう」36
 - 使い慣れた武器を持っていた
 - ダビデは「石投げ紐」に絶対の自信を持っていた
 - ゴリアトの急所を狙った
 - 「石投げ紐を使って飛ばし、ペリシテ人の額を撃った。石はペリシテ人の額に食い込み、彼はうつ伏せに倒れた」49
- 

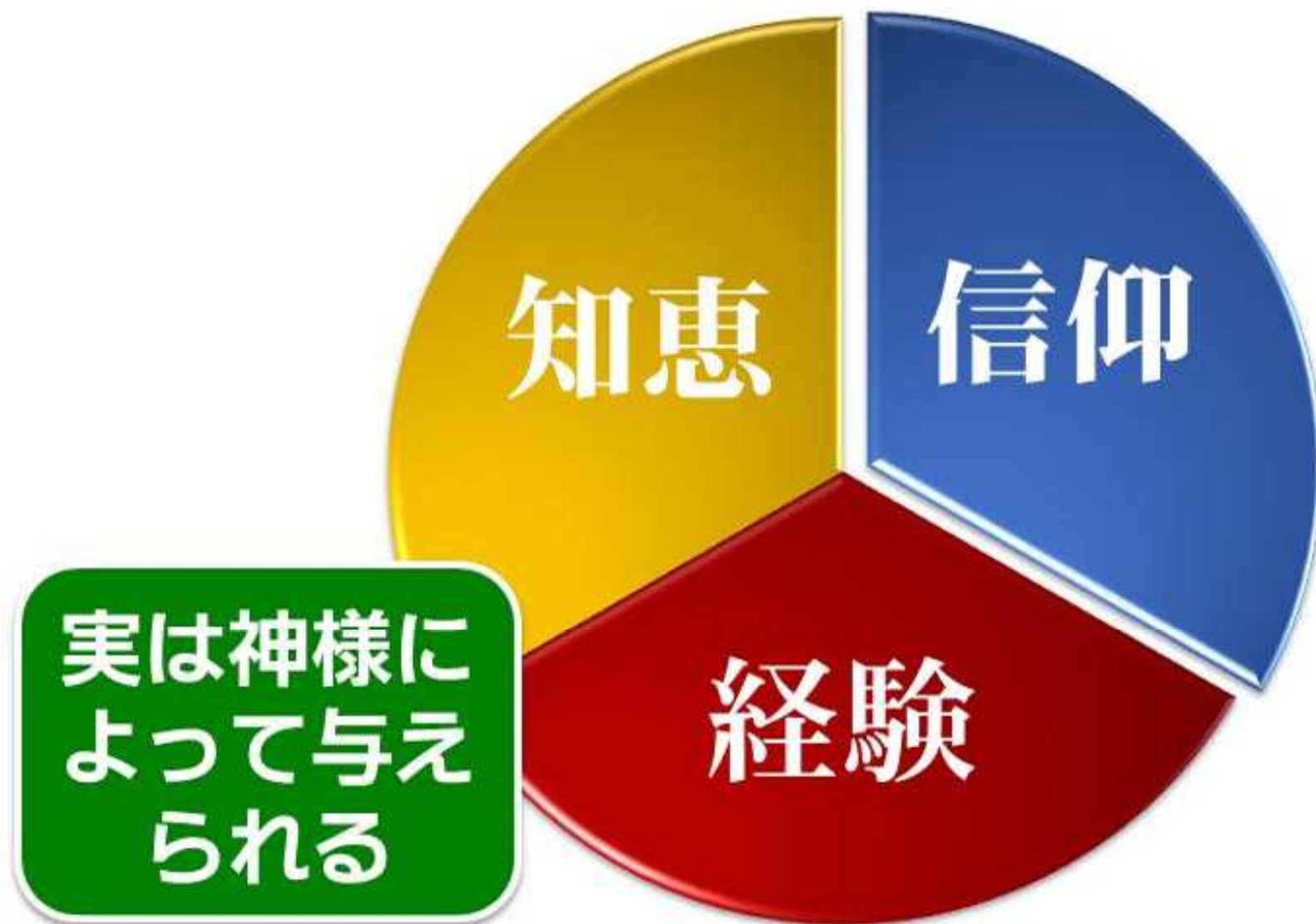
ダビデを勝利に導いたもの【知恵】

- サウル王の武具を身に着けなかった
 - 「こんなものを着たのでは、歩くこともできません。慣れていませんから。」39
 - なめらかな石を5個用意した
 - 空気抵抗が少なく、狙ったとおりに飛ぶ
 - 5回攻撃のチャンスがある
 - 巨大だが動きの襲いゴリアトに対し、すばやい動きで立ち向かった
 - 「ペリシテ人は身構え、ダビデに近づいて来た。ダビデも急ぎ、ペリシテ人に立ち向かうため戦いの場に走った」48
- 

巨人を倒すには



巨人を倒すには





石投げひも



